

氏名	糸井美帆
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第147号
学位授与年月日	平成24年3月9日
学位論文題目	維持透析患者の自己管理行動と生きがい感との関連

## 論 文 内 容 要 旨

※整理番号	152	(ふりがな) 氏 名	いとい みほ 糸井 美帆
修士論文題目	維持透析患者の自己管理行動と生きがい感との関連		
<p>目的 透析患者の自己管理行動および生きがい感について調査を行い、自己管理行動と生きがい感に関連する因子を明らかにし、両者の間に相互作用の関係があることを確認する。</p> <p>方法 京都府と滋賀県にある病院、診療所およびクリニックを無作為抽出し、血液透析療法を受けており維持期にある患者を対象に質問紙による調査を実施した。調査項目は、個人属性・生活状況(性別、年齢、家族構成、ペットの有無、食事の調理者、就労状況、趣味・友人・近所付き合いの有無、高齢者クラブ・ボランティア活動への参加の有無、デイサービスまたはミニデイサービス・ホームヘルパー利用の有無、経済的満足度、日常に支障をきたしている症状)、治療データ(体重増加率、BUN、K、P)の収集、血液透析患者自己管理行動尺度および高齢者向け生きがい感スケール(K-I式)を使用し、自己管理行動と生きがい感を測定した。収集データは、基本統計量、t検定、<math>\chi^2</math>検定、一元配置分散分析、相関、重回帰分析をSPSS15.0 J for Windowsにて行い、検討した。</p> <p>結果 維持透析患者の生きがい感には配偶者、就労状況(無職)、趣味、友人、近所付き合い、ボランティア活動が直接影響していることが確認された。また、高い生きがい感を持つことが意欲的な自己管理行動につながることを示唆された。</p> <p>考察 老年期の維持透析患者にとって他者とのつながりは非常に重要であり、このつながりを通して、役割の遂行や存在価値を感じることで生きがい感を向上させていると示唆された。また、生きがい感を高めることは、QOLの向上のみならず、良好な自己管理行動にも影響を与えていることが確認された。看護者には患者が孤立感を抱くことのないよう、他者との関わりを強く、さらに広めるような介入が求められる。また、看護者との関わりも他者とのつながりの一つであることを認識し、意図的に関わるという姿勢が必要であると考えられる。</p> <p>総括</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>維持透析患者の属性および生活状況の中で、年齢は食事療法や水分制限の自己管理行動にのみ直接影響しており、就労状況(常勤)は透析患者に必要な自己管理行動全般に直接影響していることが確認できた。</li> <li>維持透析患者の属性および生活状況の中で、家族構成(配偶者)、就労状況(無職)、趣味、友人、近所付き合い、ボランティア活動が生きがい感に直接影響していることが確認された。</li> <li>高齢期にある維持透析患者には、他者とのつながりが生きがい感の重要な要素であり、そのつながりを通して、役割を担い、存在価値を感じることで様々な制限された透析生活を支えていると示唆された。</li> <li>維持透析患者の自己管理行動と生きがい感には相互関係が成立した。高い生きがい感があると自己管理行動全般を意欲的に行えるようになり、また食事や水分管理を行うことが生きがい感を向上させることにつながっていると示唆された。</li> </ol>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。